

ルーマニア

Romania

	2014年	2015年	2016年
①人口: 2,223万人(2017年1月)			
②面積: 23万8,397km ² (2016年)			
③1人当たりGDP: 9,465米ドル (2016年)			
④実質GDP成長率(%)	3.1	3.9	4.8
⑤消費者物価上昇率(%)	1.1	△0.6	△1.5
⑥失業率(%)	6.8	6.8	5.9
⑦貿易収支(100万ユーロ)	△6,538	△7,794	△9,254
⑧経常収支(100万ユーロ)	△1,012	△1,978	△3,966
⑨外貨準備高(100万米ドル)	39,165	35,167	36,133
⑩対外債務残高(グロス) (100万ユーロ、期末値)	75,829	70,557	68,979
⑪為替レート(1米ドルにつき、 レイ、期中平均)	3.35	4.01	4.06

〔注〕①: 在外ルーマニア人を含む、⑤: 年平均、⑦: 国際収支ベース(財のみ)、⑨: 金を除く

〔出所〕①②⑤⑥: ルーマニア国家統計局、③⑨⑪: IMF、④⑦⑧⑩: ルーマニア国立銀行

2016年のルーマニア経済は、内需が牽引して実質GDP成長率は、EU28で高水準の4.8%であった。輸出は前年比5.1%増、輸入は7.0%増となり、赤字幅は拡大した。対内直接投資は、前年比17.9%増と好調だった。対日貿易は、輸出が回復基調にあるが、輸入も増えている。日本からの投資は、日系自動車部品メーカーやゲーム関連企業の投資が見られた。

■ 内需が牽引し EU28 で高水準の成長率

ルーマニアの2016年の実質GDP成長率は過去8年間で最高の4.8%だった。これはEU28の中で、アイルランドとマルタに次ぐ3番目の高成長率である。これを支えたのは、主に2016年から2017年にかけての付加価値税減税(24%から19%)や最低賃金引上げ(1,050レイから1,450レイ)による内需拡大である。

項目別で見ると、民間最終消費支出は前年比7.3%増となり、政府最終消費支出も3.3%増となった。一方、国内総固定資本形成は2015年の8.3%増から3.3%減に転じた。特に2016年第4四半期は前年同期比14.2%減と大きく後退したが、これは同年12月の上下両院選挙後の各種減税を見越し、企業が設備投資を手控えたためである。

経済の堅調さは2017年に入っても続き、同年第1四半期の実質GDP成長率は前年同期比で、EUトップの5.6%となった。2017年1月に発足したグリンデアヌ新内閣は、2017年は5.2%の経済成長が可能と予測するが、内需頼みの経済は輸入増加による貿易赤字を助長し、経済の先行きを懸念する声もある。

表1 ルーマニアの需要項目別実質GDP成長率

	2015年	2016年				2017年 Q1	
		Q1	Q2	Q3	Q4		
実質GDP成長率	3.9	4.8	4.3	6.0	4.3	4.8	5.7
民間最終消費支出	5.5	7.3	8.3	9.5	6.1	6.3	7.3
政府最終消費支出	△0.7	3.3	9.4	9.8	5.9	3.3	2.0
国内総固定資本形成	8.3	△3.3	2.3	10.7	0.5	△14.2	△1.0
財貨・サービスの輸出	5.4	8.3	5.5	8.5	6.9	10.9	10.9
財貨・サービスの輸入	9.2	9.8	9.7	13.5	7.7	8.6	10.6

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕ルーマニア国家統計局

■ ドイツの存在感が増し、輸出拡大

2016年の輸出額は、前年比5.1%増の573億8,600万ユーロ、輸入額は7.0%増の673億4,500万ユーロで、赤字幅は19.0%増の99億5,900万ユーロと拡大した。

輸出を品目別で見ると、主要品目構成は2015年とほぼ同じだが、機械・電気機器(構成比29.4%)は前年比11.3%増と、存在感を強めている。また、輸送用機器のうち、トラクター・自動車部品(9.4%)はドイツなど西欧への輸出が好調で19.5%増となる一方、乗用車(5.1%)は0.5%減と微減した。ルーマニアにある完成車メーカー2社(ダチア、フォード)は例年その9割を輸出しているが、2016年は両社とも生産台数が減少し、それに伴い輸出台数も8.2%減少して計32万6,089台となった。最大の輸出モデルであるダチアの「ダスター」(18万3,860台、前年比13%増)が割安感から西欧で売上げを伸ばす一方、ダチアの「サンデロ」(4万4,317台)やフォード「B-MAX」(3万8,857台)はそれぞれ15%減、19%減と振るわず全体で減少した。そのほか、植物性生産品(6.0%)は11.9%増、穀物(3.7%)も5.0%増となった。世界的な豊作を理由に、例えば小麦の国際価格が10年ぶりの安値

圏に到達したことで、多くの外国業者が輸入量を増やしたと考えられる。なお、鉱物性製品(3.8%)の15.1%減、化学品(3.2%)の9.3%減などが続く原因は、原油価格下落を理由とした国内採掘産業やエネルギー産業の売上高の減少がある。

輸出を国・地域別にみると、EU向けが全体の75.1%を占め、輸出額は前年比7.0%

増の 430 億 8,000 万ユーロだった。ルーマニアにとって最大の輸出先であるドイツ向け(21.5%)は 14.6%増、それに次ぐイタリア(11.6%)は 2.1%減、フランス(7.2%)は 11.6%増であった。ドイツ向けの輸出を品目別にみると、原子炉・ボイラー・機械類が 15.3%増、輸送用機器が 19.3%増、機械・電気機器が 22.1%増とこれらが輸出額増加に大きく貢献した。そのほか、ベルギー向けも 11.8%増と伸びているが、これは菜種が 83.3%増加したことが大きい。

非ユーロ圏の国々のうち、ブレグジットに揺れる英国(4.3%)との貿易額はもともと大きくはないが、昨年の輸出額にも大きな変化はなく、4.6%増であった。一方、ポーランド向け(2.9%)の伸び率は 13.1%と比較的高いが、これは自動車部品など輸送用機器の 30.1%増による。

EU 域外では、中国向け(1.1%)が 17.1%増と大きく伸びたが、他国は概して低水準の伸びもしくは減少傾向にある。トルコ(3.2%)は 15.4%減で、穀物の 74.2%減をはじめ、鉱物燃料・原油の 29.0%減、鉄鋼の 19.7%減、輸送用機器の 18.4%減など軒並み減少した。また、韓国向け(0.5%)は 28.8%減となったが、これは原子炉・ボイラー・機械類の 36.1%減、穀物の 75.5%減が大きく影響したもので、輸送用機器の 539.3%の増加分を相殺することとなった。

■ 内需拡大で輸入量が増加、貿易赤字拡大へ

輸入については、主要品の大多数が増加した。最大の輸入品目である機械・電気機器(構成比 28.1%)は前年

表 2 ルーマニアの主要品目別輸出入

(単位:100 万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2015 年		2016 年		2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・電気機器	15,200	16,895	29.4	11.3	17,900	18,916	28.1	5.6
輸送用機器	9,160	10,099	17.6	10.3	5,753	6,795	10.1	17.8
トラクター・自動車部品	4,517	5,398	9.4	19.5	2,583	2,762	4.1	6.9
乗用車	2,941	2,925	5.1	△0.5	1,361	1,754	2.6	28.8
金属	4,693	4,484	7.8	△4.5	6,742	6,773	10.1	0.5
繊維	3,947	4,065	7.1	2.8	4,270	4,682	7.0	9.8
植物性生産品	3,072	3,441	6.0	11.9	2,038	2,333	3.5	14.5
穀物	2,001	2,102	3.7	5.0	540	596	0.9	10.5
プラスチック・ゴム製品	3,096	3,264	5.7	5.6	4,611	4,894	7.3	6.1
雑製品	2,384	2,554	4.5	7.0	1,318	1,555	2.3	18.4
鉱物性製品	2,556	2,170	3.8	△15.1	4,394	4,140	6.1	△5.5
化学品	2,035	1,856	3.2	△9.3	6,338	6,713	10.0	6.1
合計(その他含む)	54,598	57,386	100.0	5.1	62,968	67,345	100.0	7.0

〔注〕 輸出は FOB、輸入は CIF。

〔出所〕 ルーマニア国家統計局

表 3 ルーマニアの主要国・地域別輸出入

(単位:100 万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2015 年		2016 年		2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成率	伸び率	金額	金額	構成率	伸び率
EU	40,242	43,080	75.1	7.0	48,587	51,949	77.1	6.9
ユーロ圏	29,389	31,645	55.2	7.7	34,545	37,124	55.1	7.5
ドイツ	10,782	12,348	21.5	14.6	12,482	13,810	20.5	10.5
イタリア	6,786	6,660	11.6	△2.1	6,857	6,910	10.3	0.9
フランス	3,715	4,147	7.2	11.6	3,519	3,736	5.5	6.4
スペイン	1,579	1,720	3.0	8.8	1,610	1,839	2.7	14.2
オランダ	1,383	1,453	2.5	5.1	2,524	2,766	4.1	9.7
オーストリア	1,369	1,361	2.4	△1.0	2,427	2,406	3.6	△0.9
ベルギー	985	1,101	1.9	11.8	1,445	1,573	2.3	8.7
スロバキア	962	1,003	1.7	4.2	1,426	1,579	2.3	10.7
ギリシャ	721	768	1.3	6.7	725	791	1.2	9.1
非ユーロ圏	10,853	11,425	19.9	5.3	14,041	14,821	22.0	5.6
ハンガリー	2,937	2,974	5.2	1.2	5,005	5,061	7.5	1.1
英国	2,380	2,486	4.3	4.6	1,565	1,541	2.3	△1.7
ブルガリア	1,822	1,851	3.2	1.8	1,862	2,095	3.1	12.6
ポーランド	1,463	1,655	2.9	13.1	3,051	3,464	5.1	13.7
チェコ	1,365	1,515	2.6	11.0	1,795	1,905	2.8	6.3
トルコ	2,150	1,819	3.2	△15.4	2,283	2,554	3.8	11.9
ロシア	989	970	1.7	△1.8	1,986	1,975	2.9	△0.3
米国	1,052	956	1.7	△9.2	679	636	0.9	△6.3
モルドバ	740	749	1.3	1.2	481	497	0.7	3.4
セルビア	627	639	1.1	1.6	385	466	0.7	21.2
中国	525	615	1.1	17.1	2,887	3,440	5.1	19.1
韓国	415	295	0.5	△28.8	483	510	0.8	5.5
日本	211	215	0.4	2.3	292	332	0.5	13.7
カザフスタン	43	58	0.1	34.4	1,010	824	1.2	△18.5
ウクライナ	308	400	0.7	29.8	561	702	1.0	25.1
合計(その他含む)	54,598	57,386	100	5.1	62,968	67,345	100	7.0

〔注〕 輸出は FOB、輸入は CIF。

〔出所〕 ルーマニア国家統計局

比 5.6%増加した。輸送用機器(10.1%)は 17.8%増だが、うち乗用車(2.6%)が 28.8%増と大きく数値を伸ばしている。その輸入台数は、2016 年に 22.8%増の 8 万 2,130 台で、最も多いフォルクスワーゲンの 1 万 1,983 台(22.4%増)に、シュコダの 1 万 268 台、ルノーの 8,351 台が続く。一方、鉱物性製品(6.1%)については 5.5%減となったが、これは主にカザフスタンからの輸入量が 18.5%減ったためである。

国・地域別で見ると、EU からの輸入は全体の 77.1%を占めた。最大の輸入先はドイツ(構成比 20.5%)からで、前年比 10.5%増、次いでイタリア(10.3%)は 0.9%増、ハンガリー(7.5%)は 1.1%増だった。ユーロ圏で増加が目立つのは、スペインからの 14.2%増だが、これは輸送用機器(鉄道車両を除く)が14.0%増、肉類が65.7%増加したのに加え、鉄道車両などの輸送用機器が約 12 倍に増えた結果である。

非ユーロ圏からの輸入については、ポーランド(構成比 5.1%)が 13.7%増と大きく伸びた。これは鉱物燃料が 23.1%減と大きく減少した一方で、原子炉・ボイラー・機械類、電気機械・電気機器類、衣料、家具などが増加したためだ。ブルガリア(3.1%)からも 12.6%増で、穀物の 33.4%増、肥料の 68.9%増、その他の化学製品が 3.3 倍超に増加した。なお、英国(2.3%)は 1.7%減だが、輸出同様、ブレグジットに関連する影響は現在のところ大きくはみられない。

EU 域外からの輸入については、ウクライナ(構成比 1.0%)では電気機械・電気機器類が大幅に増加したことにより 25.1%増となった。カザフスタン(1.2%)が鉱物燃料や原油が 18.8%減で、全体でも 18.5%減少した。

■ 対内直接投資は増加、大型 M&A も増加

ルーマニア国立銀行によると、2016 年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は、前年比 17.9%増の 40 億 8,100 万ユーロとなった。2017 年 6 月時点でルーマニア国立銀行および統計局は国・地域別および業類別の詳細を発表していない。2015 年末時点の投資残高 644 億 3,300 万ユーロの国・地域別内訳をみると、上位 5 カ国はオランダ(構成比 25.0%)、オーストリア(14.2%)、ドイツ(12.4%)、キプロス(6.9%)、フランス(6.7%)であり、前年と同順位である。日本からの投資残高は 2 億 4,700 万

表 4 ルーマニアの対内直接投資<国際収支ベース、ネット、フロー>
(単位:100 万ユーロ)

2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年
1,700	2,489	2,712	2,421	3,461	4,081

[出所] ルーマニア国立銀行

表 5 ルーマニアの主要対内直接投資事例(2016 年)

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
エネルギー	中国華信能源(CEFC)	中国	2016 年 4 月	6 億 2,000 万ドル～6 億 8,000 万ドル	KMG インターナショナル(KMGI)の株の過半数を買収。
小売	ミッド・ヨーロッパ・パートナーズ	英国	2016 年 11 月	5 億 3,300 万ユーロ	プロフィ(スーパーマーケットチェーン:約 500 店)を買収。
食品	アサヒビール	日本	2017 年 3 月	3 億ユーロ以上	SAB ミラー傘下のウルススブリュワーズを買収。
自動車生産	フォード	米国	2016 年 3 月	2 億ユーロ	2017 年秋以降、クラヨバ工場で「エコスポーツ」を生産。
タイヤ生産	ピレリ	イタリア	2016 年 9 月	2 億ユーロ	2021 年までに同社スラティナ工場を拡張。
自動車部品	スター・アッセンブリ(ダイムラー)	ドイツ	2016 年 4 月	3 億ユーロ	同社セベシユ工場を拡大し、9 速自動変速機を生産。
自動車部品	ロレム	ドイツ	2016 年 9 月	3,000 万ドル	自動車部品の新工場を建設し、2019 年第 2 四半期から生産開始。

[出所] 各社発表及び報道などから作成

ユーロ(0.4%)で、前年比 1,200 万ユーロの増加となった。業種別にみると、製造業は 31.8%を占める。製造業以外での主な投資分野は金融・保険(13.1%)、商業(12.2%)、建築・不動産(12.2%)、電気・ガス・水道(9.8%)などである。

2016 年は自動車産業やエネルギーへの大型投資案件が目立った。フォード(米国)は 2016 年 3 月、2017 年の秋以降に小型 SUV の「エコスポーツ」を生産するため、クラヨバ工場に 2 億ユーロの投資計画を発表。イタリアのタイヤメーカーのピレリは 2016 年 9 月、2021 年までに 2 億ユーロを投資し、スラティナ工場を拡張すると発表した(ルーマニア政府が 2,858 万ユーロを補助)。自動車部品分野では、ダイムラー、ロレムなどドイツ勢の追加投資が目立った。ダイムラー子会社のスター・アッセンブリは 2016 年 4 月、3 億ユーロ超を投資してセベシユ工場を拡大、9 速自動変速機の生産を開始する。ロレムは 2016 年 9 月、中国の寧波華翔電子と MOU を締結し、3,000 万ドルの投資規模で自動車部品の新工場を 2017 年第 1 四半期から建設し、2019 年第 2 四半期から生産開始予定である。

非製造業では、テレコム・ルーマニアは 2016 年 3 月、ネットワークインフラの開発と拡張に 2016 年の 1 年間で 1 億 8,000 万ユーロを投資することを発表した。不動産のソナエ・シエラ(ポルトガル、英国)は、2013 年 11 月からショッピングモール(パーク・レイク)建設に 1 億 8,000 万ユーロを投資し、2016 年 9 月 1 日にオープンした。これにより Forever21 などのカジュアルアパレルブランドのルーマニア新規進出があった。

M&A については、経済紙「ジアルル・フィナンチアル」によると、2016 年は計 136 件、総額 20 億ユーロであった。分野別に見ると、不動産・建設(21 件)、製造業(20 件)、通信・IT(17 件)、金融・保険(15 件)、商業(12 件)、サービス(11 件)、食品・サービス(11 件)、鉱業・エネルギー(9 件)、その他(20 件)となった。エネルギー分野ではエネルギー部門中心の大手投資会社の中国華信能源(CEFC)が 2016 年 4 月、6 億万ドル超を投じ、石油精製工場ペトロミディアを有する KMG インターナショナル株式の過半数を取得した。イタリアの電力大手エネルは 2017 年 4 月、

表 6 ルーマニアの対日主要品目別輸出入

(単位:100 万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2015 年		2016 年			2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
木材・木炭	148	163	75.7	10.3	原子炉・ボイラー・機械類	68	76	23.0	12.5
穀物	23	10	4.5	△57.8	電気機械・電気機器	64	69	20.7	7.7
小麦とメスリン	1	9	4.0	517.8	輸送用機器	44	63	18.8	42.8
大麦	22	1	0.5	△95.1	乗用車	24	28	8.5	18.5
衣類・同付属品(編んでいない物)	5	5	2.3	△0.5	トラクター・自動車部品	18	29	8.8	60.6
光学機器・精密機器	4	5	2.1	27.2	プラスチック・同製品	18	20	6.1	10.9
ゴム・同製品	5	4	1.9	△11.3	ゴム・同製品	19	20	6.1	7.2
輸送用機器	3	4	1.7	9.8	鉄鋼製品	21	19	5.8	△11.1
トラクター・自動車部品	2	3	1.2	27.7	光学機器・精密機器	11	12	3.6	5.0
医薬品	1	3	1.5	132.6	ガラス・同製品	7	10	3.1	56.9
天然蜂蜜	1	3	1.4	177.9	卑金属のその他の物品	8	10	3.0	20.1
プラスチック・同製品	2	3	1.3	22.4	有機化学薬品	2	4	1.2	81.3
電気機械・電気機器	5	3	1.2	△47.5	その他の化学製品	4	4	1.2	1.1
原子炉・ボイラー・機械類	2	2	1.2	2.8	鉄鋼	7	4	1.1	△52.3
衣類・同付属品(編み物)	2	2	1.0	△1.0	爆薬	2	3	0.9	39.8
合計(その他含む)	211	216	100.0	2.2	合計(その他含む)	292	332	100.0	13.6

[出所] EU 統計局

配送電企業のイー・ディストリブツィエ・ムンテニアおよび電力会社のエネル・エネルジェ・ムンテニア株の13.6%を4億ユーロで取得。不動産分野では、南アフリカの不動産投資会社ニュー・ヨーロッパ・プロパティ・インベストメンツが2016年6月、ショッピング・シティ・シビウを1億ユーロで買収するなど複数の大型買収案件が見られた。シンガポール政府系投資ファンド GIC が2016年11月、P3 ロジスティック・パークスを2億4,000万ユーロで買収した。また、南アフリカのグローブ・ポイント・プロパティーズが同年12月、グローバルワース・リアルエステート・インベストメンツ株の26.88%を1億8,640万ユーロで買収した。小売り分野では、英国のミッド・ヨーロッパ・パートナーズが2016年11月、プロフィ・スーパーマーケット・チェーンを5億3,300万ユーロで買収している。

■ 木材輸出は回復、輸送用機器輸入は増加

2016年の対日輸出は前年比2.2%増の2億1,553万ユーロ、輸入は13.6%増の約3億3,218万ユーロであった。貿易赤字幅は約1億1,665万ユーロと、前年比で43.2%の拡大となった。

輸出を主要品目別で見ると、木材・木炭(構成比75.7%)は前年比10.3%増であった。穀物(4.5%)は57.8%と大幅に減少した。これは小麦とメスリンが6倍以上増加した一方、大麦が95.1%減と著しく減少したためである。光学機器・精密機器(2.1%)は27.2%増。輸送用機器(1.7%)も9.8%増で、トラクター・自動車部品の27.7%増がこれに寄与している。さらに、医薬品(1.5%)と天然蜂蜜(1.4%)は、それぞれ2.3倍増と2.8倍増だった。一方、ゴム・同製品(1.9%)は11.3%減、電気機械・電気機器(1.2%)は47.5%減と振るわず、共に輸出量は減少した。

輸入を主要品目別で見ると、原子炉・ボイラー・機械類

(構成比23.0%)が12.5%増、電気機械・電気機器(20.7%)も7.7%増加した。輸送用機器(18.8%)は42.8%増加したが、これは乗用車が18.5%増加し、さらにトラクター・自動車部品が60.6%増と大きく数値を伸ばしたためである。その他、ガラス・同製品(3.1%)が56.9%増、有機化学薬品(1.2%)が81.3%増であった。なお、鉄鋼(1.1%)と鉄鋼製品(5.8%)はそれぞれ52.3%減、11.1%減だった。

■ 日系企業投資に新たなトレンド

2016年の日系企業による投資は、これまでも自動車部品など製造業の盛んな進出のみならず、ゲーム関連企業によるサービスセンター設立などの新たな動きがあった。

日本電産は2016年4月、ルーマニア南部ピテシュティの家電用モーターメーカー、アナ・イメプの株式94.8%を取得し、家庭用洗濯機などの家電モーターや産業用モーターなどの生産拡大に着手した。住友電装(SEWS)は2016年8月、ルーマニア西部フネドアラ県ペトロシャニに200人規模の自動車用ワイヤーハーネス工場を新設すると発表。同社にとっては国内9番目の工場となる。アサヒビールは2017年3月、ベルギーのアンハイザー・ブッシュ・インバブから、ルーマニアを含む5つのビール事業会社を8,883億円相当額で買収。クルージュ・ナボカ市を拠点とするルーマニア最大のビール会社ウルススが、同社傘下となった。ゲームの不具合調整やカスタマーサポートなどを主力事業とするポルトウウィン・インターナショナルは、英国に次ぐ欧州拠点としてブカレストにサービスセンターを開設した。同社の進出は、ルーマニアに労働集約性のみならず、多言語対応力の高さに着目したものであり、日系企業による新たな投資トレンドとして注目される。